

津軽と南部の確執を決定づけた歴史的大事件
『文政四年の激震（相馬大作事件）』

「子日報」で紹介されました！

說書

文政四年の激震（相馬大作事件）

「忠臣」か、「大悪人」か。相次ぐ評価で語り継がれる盛岡藩士の相馬大作(1730~1822年)。

1821(文政4)年、津
藩主の襲撃を企てる。な
ぜ彼は、近世史に残る大事
件を起したのか。

郷土の棚

津軽藩主襲撃に迫る

江戸に逃げた末、死罪となつた。これが広く知られる「相馬大作事件」。忠義の命じていた。兵聖閣では近物語として、講談や芝居でも人気を博した。

本書の発点は、江戸幕府による蝦夷地（北海道）経営とロシアの動向に向けられた。19世紀初め、ロシアは仏蘭西領の動きが表面化。さ

當時、北海道は幕府直轄領で、沿岸警備は東北諸藩の代的砲術や測量術、耐寒行軍訓練などを重視。大作には「北衛の志士」との意識があつたことが窺える。

岩手県で売っています！

地方小扱いですが返品可（返品時には地方小の返品了解が必要です）。
ぜひ積極的な平積販売をお願いします。

いですが返品可（返品時には地方小の返品了解が必要です）。ぜひ積極的な平積販売をお願いします。

(一)江戸生まれ。本名は下斗米秀之進。江戸で兵学や武術を学んだ後、帰郷して文武を學ぶ「兵聖閣」を開設した。
主君南部家の津軽家に對する遺恨を晴らすべく、果たし状を送り襲撃を計画。盛岡藩に繋がるが及ばないよう、の意成を決意する。

ナポレオン軍との戦いで、北海道へ南下する余裕はない。幕府は北方の警備を強化した。幕府は北の方の警備を縮小。だが、いつ口

シアが攻めてくるか分からぬ。大作は江戸で国防においての北海道の重要性を学び、陣頭指揮を執れる人物

「津軽の下座に屈服し若き藩士が怒りにまかせて争いを起こせば藩は危うくなれる」

てした連絡機の位置を駆逐させた動きに失望する。

下
米哲明著

*本書は地方小扱いですので一部の書店を除き新刊配本はありません。必ず事前のご予約（ご注文）をお願いします。

ご注文は下記にご記入の上→寿郎社 FAX011-708-8566

注文票			
地小版 方流通センター 取扱品	●発行 寿郎社	●発注日 月 日	●備考
●書店名	●著者名 下斗米哲明		
●御担当者名	●注文数 冊	●書名 文政四年の激震〈相馬大作事件〉 江戸と蝦夷地を揺るがした津軽と南部の確執	
		●定価：本体 2300 円 + 税	●ISBN 978-4-909281-46-3 C0021